



西洋美術史への扉

マネとモネのパリ

都市に立つ人、光に揺れる駅



エドゥアール・マネ
《鉄道》1873年

同じ近代都市パリを舞台に、街の人々や人間関係を描いたマネと、駅、橋、蒸気、光を通して変化し続ける風景を描いたモネ。二人の作品を比較しながら、それぞれが切り拓いた近代絵画への道をわかりやすく解説します。

日時：8/29(土) 14:00～15:15

費用：700円

定員：54名（申込先着順）

申込：8/4(火) 14:00～

申込フォームもしくは窓口にてお申し込みください



講師：長谷川浩一

美術史研究家。秋田市出身。
イギリス・ノッティンガム大学および大学院で美術史を専攻し、ヴェネツィア・ルネサンス美術を研究。ヨーロッパ各地を巡り、その街の空気や文化、歴史を感じながら美術史の研鑽を積む。クラシック・ロック・ジャズを愛し、F1やサッカーに熱狂する一方、自身のブログでは旅と文化をテーマに、アート、映画、音楽、本など、多彩なジャンルの魅力を発信している。



クロード・モネ
《ラ・グルヌイエール》1869年



エドゥアール・マネ
《バルコニー》1868-69年



クロード・モネ
《印象、日の出》1872年

